

めだかの学校だより

平成 15 年 11 月 1 日
第 42 号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：引佐郡引佐町
東久留女木 472-111
TEL053-545-0381

校長訓話

第四十二回校長 大橋 町代

《生きていくめだか》

たよりないけど、これでも一生懸命に生きてきて、いよいよ来年は還暦。ここにきて本当の大人としての自覚と責任をじわじわと感じてきました。生きとし生ける物に対して、自然に対して、地球に対して、はたして人として何が出来ののだろうかと考える時、ほんとうにちっぽけな存在の自分に気がつきます。

小学生の私、一人で川にいた。目で追っている先にはメダカが群れていた大きなメダカに焦点を合わせて：やったあ！喜びが全身に走る。入れ物がない！両手をきっちり合わせて静かに疾風のごとく？我が家へ。いとおいしいこの小さな生命は、床の間の水盤の中で次々と命を伝えていった。

“メダカ”と聞くと、今でも甘酸っぱい懐かしい思いで胸がキュツとなります。幼い頃のこうした素朴な遊びを通して命の大切さ、いとおいさを学んだような気が

がいたします。メダカを育む川、川を育む山、山を育む空。メダカから宇宙へと広がります。

書道教室に幼い頃から大人の方達が来てくださいます。字を書くことは心を書くこと。心の姿勢をしつかりと持つことに繋がります。豊かな心は魅力ある字の表現を可能にします。(基礎が大切であることはもちろんですが)時には音楽を聴きながら、時には飲めないアルコールをちよつと入れ、詩に酔いながら、時には神様にお願ひしながら書く時の楽しさ。これは是非体験されることをお勧めします。書は自己表現の素敵な手段の一つです。

めだかの学校に登校すると、いろいろなエネルギーを頂戴することが出来ます。私の書にも新しい風がたくさん入っています。私の中ではと感じます。紹介して下さいました原さんに感謝しております。想いは大きいのです。少しでも日本の未来に役立つことをしていきたいのです。

子どもたちに健全な心と思い、おけいこの時などに言葉の乱れに気がつく、助言したりしています。それが染みこ

んでいって、いつの日か何らかの役に立つことがあればうれしいことです。でも、電車の中や路上で見かける自己表現の下手な青年達にはちよつと言えないのが情けないですね。

提言いたします。今の世の中の乱れは大人の行動の結果であると認識して、一人一人がこの世界に何が出来ののだろうかと考えて下さい。一人が一つの課題を持つて取り組めば、未来は輝いてくるのではと期待します。常識ではなくて良識を持つて考えてみて下さい。

みな様のお力添えでやつと立っていられるような頼りない校長ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。十二月には元氣にお会いいたしましょう。

附記(広辞苑より)

還暦＝華甲(かこう)華の字を分解すれば六つの十と一となる。「甲」は甲子(きのえね)の意、二数え年六十一歳の称「ほんげがえり」。

花(華)の還暦です！。



めだかの学校伝言板

——第 42 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／大橋町代
教頭／藤野利昭
用務員／水野忠義
給食係／伊藤茂男・萩田博・伊藤八右・徳増兼弘
榊原淑友・鈴木計芳・忠敬一・森田泰子
尾上美知子・照井泰子・藤野はつえ・新村圭子
渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町東久留女木観音山
日本ボーイスカウト連盟静岡県支部
観音山緑の郷キャンプ場
TEL なし

開校日／平成 15 年 12 月 5 日(金) 6:20PM より
受付／水島加寿代・池田タキ江・田中房子
耳塚信博・原邦司(後見人)

<時間割> ～知的満足度を高めるために～
＝演芸博?・園芸博?… “えんげいはく” っ
てなんだ?＝

- ・一時間目／社会科「園芸博のオモテバナシ」
吉岡徹郎先生
- ・二時間目／技術家庭「おせっかいなジャポニカ図鑑・でも教えて」
池谷俊博先生
- ・三時間目／理科「古代園芸・100 万円の古代蘭(わからん)」
落合啓二先生

※給食の時間一とろろごはんを年越ししましょう～おしるこで乾杯

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■浜名湖に棚田？。そうです、来年春から半年間にわたって浜名湖の村橋半島で開かれる「浜名湖花博」の会場に棚田を作った、訪れる人に棚田を見てもらうのです。少しでも多くの人に日本の伝統風景である棚田の美しさを楽しんでもらうと同時に、農業のこと、食糧のこと、環境や中山間地域のことなどを考えてもらう機会にしようという企画です。たそくさんの予算を組んで土木業者に発注すれば、それなりに出来ませんが、棚田の保全や復元を目的とするボランティア組織で、私もその立ち上げに少し関わった「すおか棚田くらぶ」の活動として、県民参加の手弁当の棚田作りがはじまりました。

造成面積は、わずか50平方メートルほどですが、「棚田くらぶ」には、棚田の工事経験者がいません。いろいろ調べているうちに落合啓二さんから、「近藤藤平さんが、石垣の情報をもとに、龍山村に石垣積みみの先生がいらした」ということがわかりました。その龍山村の藤原さんを講師にお願いしました。その龍山村の藤原さんには、20人余りの会員などが集まりました。驚いたことに石垣積みを実際に行うと見たいと、東京から家族3人で参加された方がいました。石垣積みは、龍山村で確認したものを調達し、この石垣江町内で確保した田んぼの作り土の運搬などは、業者をお願いしています。

会場内の造成された小山ではあるが、斜面を削って、根石を置き、裏込めの小石や砂利を詰め、その上に次々と石を積み上げていきました。藤原先生の積んだところは絵になるのに、ボランティアが積んだところは、どうしても座りが悪くなってしまいました。先生に見てもらって、石の方向を少し変えただけで、格段に安定感が増すなど、石積みは不思議な世界だと改めて感じました。少しばかりの展示のための棚田でも大変であるのに、天まで積み上げたようなフリーピンや中国の棚田はどのようにしてできたのだろうかと考えてしまいました。

「すおか棚田くらぶ」の会員募集パンフレットに、「豊かな緑、清らかな水、様々な生き物達、祭り、物語、私達が次世代に伝えていきたいことが、棚田にはすべてある」と募集パンフレットに書いたことがあり

ます。花博の開幕の頃には、規模は小さいけれど美しい棚田が再現されていると思います。めだかの皆さん、是非、棚田を見に来て下さい。花博に来て下さい。もちろん、棚田はほんの一部の二、三と見ることが出来ない貴重で素晴らしい展示がてんこ盛りです。(なんでもあり農園小作人の松)

（お礼）
「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」に、多数お出かけ頂きありがとうございました。特に「蕎麦打ち道場」を支援して頂いた方々と参加頂いた方々に厚くお礼申し上げます。

（お知らせ）
・12月7日（日）10時頃、
「防災訓練が終わったからサトウキビ刈りに行く」大須賀町などでもあり農園にて詳細は未定です。

・12月13日（土）10時頃、15時
「小笠山の蕎麦を打って食べる会」
大須賀町「第二風紋館」にて、会費：千円、蕎麦打ち体験もできます。

（お詫び）
この通信は、多くの一般県民の方々に目を通すべく、多くの方に読んで頂いておられます。公私は別としても、私として職員であることは変わりませんので、敢えて紙面をお借りしたいと思っております。県民の信頼を著しく裏切る事であり、県職員一人一人として御詫び申し上げます。この問題として、県の組織の都合を優先して来た結果、問題を拡大しその対応も長引かせてしまったと思っております。

民間では、顧客主義がよく言われており、県にもこの考え方がかなり浸透してきています。言葉では分かっているけれども、まだまだ隅々まで行き渡っていない状況があります。私達県職員は、常に県民の感覚、県民の視点に立って、県政を展開するとともに、日頃の事務運営を進めるよう、改めて徹底することが必要であると思っております。今後とも御理解と支援解解をお願い申し上げます。

■「全国各地づくり団体研修交流会」秋田大会

さる8月29、30日の2日間「全国各地づくり団体研修交流会・秋田大会」が開催され、角館町の分科会へ参加しました。いつもの車では片道12時間以上かけて行く角館町ですが、今回は新幹線「こまち号」で行くことに、なんと5時間半で寝ているうち

に着いてしまったという感じ。受け付けを済ませるとボランティアガイドの方に案内をいただいた。武家屋敷の町並み散策に出発。に楽しい時間を過ごすことができました。続いて「角館伝承館」で角館町の町づくり活動の事例報告がありました。それによると、昨年観光客数は250万人を超えたとの事、特に新幹線の開業以降はオフシーズン（冬期）の誘客に力を入れ、雪国の厳しい冬ならではの体験をしてもらえるようないろいろな工夫を凝らしたようです。結果的に春の桜、秋のお祭りだけでなく一年を通してお客様が来てくれるようになった。リピーター率も格段に高くなったそうです。寒く雪に閉ざされてしまったところがこれからの地域づくりに一番大切なことのように思えました。

交流会では全国各地から集まった大勢の仲間たちと時を忘れて語り合い、初めて会った人でも十年來の友のように話が出来、これって本当に不思議ですね！

■第20回地域づくり団体全国研修交流会鹿児島大会

鹿児島大会の要項が送られてきました。全国面白大会と合えます。参加してきましたか。『きばつと！ 変ゆつと！ 未来を！』と南の島が考へた地域づくりのかたちをテーマに、第20回地域づくり団体全国研修交流会が平成16年2月13日（金）13時から14日（土）12時まで、鹿児島県東郷郡高千穂町の「みやまコンベンション」を主会場に開かれます。13日の開会式、15時、17時から鹿児島、指宿、川辺、熊毛、大島北部など12のブロックに分かれた分科会、18時からは全体交流会、21時から各ブロックごとの夜ナベ談義、14日は9時、12時まで前日よりの分科会、積極的に討論しよう、交流しようです。締切は11月28日。各県の協議会でまとめて申し込む。詳細は事務局ホームページ、榊原メダカと花井孝メダカが出席予定です。

■すおか未来づくりネットワーク交流会議 in 松崎

「すおか未来づくりネットワーク」(県内61団体加盟)では、「なごらの海・豊饒の里・松崎町からのメッセージ」をタイトルに、平成15年11月28日（金）29日（土）の2日間、わたって、松崎町の松崎町環境センター文化ホールで開く。第一日目は、13時受付、13時30分開会。14時から第一部松崎町の地域づくり団体の事例発表①25年脈々と続く「花とロマンのふる里づくり」②長八の漆喰絵巻とナマコ壁の町並

み③甕の食のふる里棚田保存④伊豆冒険半島と商店街賑わいづくり。16時30分からは自由討議(質疑応答・意見交換)⑤松崎町からの活動報告に基づき、参加者から対案や意見、提案などを聞く。回収した質問、提案を、用紙に基づいて質問者と回答者とのコネクションコントロールをする。コーディネーターは花井孝メダカ。17時30分まとめ発表。17時40分終了。(会場移動)

18時10分、第二部交流会。松崎の地元料理を女性会や各団体がお世話します。伊勢エビやまぐさや海鮮料理がいっぱいあります。郷土芸能もあり、飲むほどに食べるほどに盛り上がる。20時30分交流会終了。それぞれの宿舎へ。夜ナベ談義もあるよ。

第二日目は、エキスカンション・松崎巡り。9時受付開始(環境センター文化ホール)9時30分出発・A 長八美術館・重文岩科学館・道の駅など施設見学コース。B 海のシーカヤック体験コース。C 棚田と潮騒コース(室岩洞・岩地・雲見)。D 中瀬邸から商店街ナマコ壁通り見学コース。11時30分現地解散。

すおか未来づくりネットワークの交流事業は、毎年一回開催、今回は9回目。大須賀町、賀茂村、川根地区、庵原地区、引佐地区、静岡市2回、富士宮市、今回の松崎。

※楽しい交流会です。是非参加を！。申込みは、「めだかの学校生」はまとめて事務局で申し込みます。締切りは11月7日ですが、めだか生はのぼして切らしてあります。至急連絡を！詳細は事務局まで。053・545・0381

◆第2回全国街道交流会議静岡大会は来年の2月富士川町で開催

「街道400年、そして未来の道」新・街道学のススメリをテーマに、第2回全国街道交流会静岡大会が、平成16年2月6日（金）8日（日）まで、静岡県富士川町で開催される。6日（金）は前夜祭として富士川町中央公民館で映画「伊能忠敬」を上映。また東名高速道路富士川サービスエリア「富士川楽座」では諸国街道名物市(街道情報交換市・全国街道名物市)が6日から一週間程度行なう。7日（土）第一日目は、13時30分開会。セシモノ。13時50分基調講演「東海道東西文化の交流路」竹内誠(江戸東京博物館長)、森屋勉久(武庫川女子大学教授)、小和田哲夫(静岡大教授)、15時移動・休憩。15時15分分科会フォーラムII分科会テーマ「道」とともに、地域を学び、地域を愛し、地域を創る。新・街道学のススメリ。第一分科会「東海道学II東海道400年、

み③甕の食のふる里棚田保存④伊豆冒険半島と商店街賑わいづくり。16時30分からは自由討議(質疑応答・意見交換)⑤松崎町からの活動報告に基づき、参加者から対案や意見、提案などを聞く。回収した質問、提案を、用紙に基づいて質問者と回答者とのコネクションコントロールをする。コーディネーターは花井孝メダカ。17時30分まとめ発表。17時40分終了。(会場移動)

そして明日は「第二分科会「街道活用学Ⅱ」街道から学び、街道を活かす」。第三分科会「現代学Ⅱ道と共に地域を創る」。第四分科会「道の駅未来学Ⅱ21世紀、道の駅はどこまで進化できるのか」。この分科会フオーラムは、3人の報告者と討論者で本音で話し合っただけ。17時15分分科会フオーラム終了。18時から交流会。

8日(日)・第二日目は、9時から12時まで。参加者自由討論「道・未知を語る」!! 分科会フオーラムの議論を深めよう!! と4つの自由討論会場に分かれて討論しよう。又持ち寄り自由討論「もつとある道・未知のテーマ」で、2つの持ち寄り自由討論会場で討論をたたく。12時自由討論会は終了し、各討論会場で総括する。13時30分「富士川楽座」などを見学。15時散会。

※主催は、全国街道交流会議、静岡県東海道ルネッサンス推進協議会、静岡大会実行委員会、事業内容は10月現在で詳細は再度詰めていく。めだかの学校からは、実行委員として鈴木武史メダカが参加している。楽しみにしてください。

◆第15回いなさ人形劇まつり
今年もいなさ人形劇まつりが、11月22日(土)〜24日(月)までの3日間、引佐町多目的研修センター他で開催する。出演劇団は、京都の人形劇団京芸はじめ名古屋の人形劇団むすび座などプロ劇団19、町内外のアマチュア劇団が9劇団。野外では、たぐさのお店も出て楽しめます。野外での人形劇公演もあり。また15周年記念として、名古屋の絵本作家かこさとしさんの講演や原画展「だるまちゃんてんぐちゃん」のシンポジウムもあ

ります。この人形劇まつりの立ち上げには、伊藤茂男メダカ(当時静岡工観光課長)、植原幸雄メダカ(当時静岡県人形劇協会相談役、人形劇団ごんべえ主宰、静岡新聞社員)、平山豊メダカ(当時静岡新聞事業部長)、永田清元メダカ(後任静岡工観光課長)、ふるさと創生の故竹下登首相らが大きく関わりました。現在は石野省三メダカが生き残さんが「ここに劇団」で出演します。

◆人・ひと・ヒト…たより

○「食文化がビジネスの原点」をテーマに、11月5日浜松市で「2003静岡ニュービジネス大会」が開催され、その第三部、静岡発「食」のセミナー「地域の食を支える、地域の新ビジネス・新技術」21世紀は顧客マーケティング時代、顧客の声を背するもが市場を君臨する! のナビゲーターは浜松市の金津万由美メダカ。第四部の交流プレゼンテーション「熱い静岡を創る、人と人とのネットワーク」では川島安一メダカ。第五の「食の提案」と称して地元の食材をふんだんに使った美味しい、楽しいの交流会をとりしきるのには佐藤和男メダカ。地元産の食材を使って「食」にこだわる人たちがそつとのそいできました。めだかの同窓会のようにです。(バラメダカ)

○平成10年に引佐浜川地区が全国農業アメリコンクルールで優秀賞を受賞。浜川地区には伊藤八右、伊藤茂男、鈴木計芳、野末か子メダカらが住んでいる。浜川は都田川の上流域、いり所です。なんやかんだで引佐町が第15回全国農村アメリコン・シンポジウムの会場に。11月6日午後1時から多目的研修センターで、テーマは「周回遅れのトップランナーをめざして今地域の本音を語る」。パネラーは地元の伊藤茂男メダカと浜松市の太田京子メダカ。コーディネーターはメダカの知人が多い田中孝治氏。全体の司会進行は、これまた水村春江メダカ。出席者が少ないから人集めを頼むと役場から押付けられるバラメダカ。いやはや全く。

○名和紅、理代子夫妻メダカの「ちっちゃなクラフト展」が、友人知人の出展協力を得て、11月1日から15日まで、引佐町谷沢の工房「さんぽ」で開かれる。20年近く陶紅窯として制作活動してきたが陶器、イラスト、とんぼ玉とジャンルも広がったことから工房「さんぽ」として再スタート。がんばる。

○富士川町の榎木恵美子メダカ。永年勤めた藤原新聞の記者をやめる。今でも頑張っているが、これからも富士川町の町づくり、天野恵美子メダカから頑張ると。

○細江町の久米久及利メダカ。遠州夢倶楽部で商品を開発したと、新聞にデカデカ。西部地区の酒屋さん有志とがんばる。

○森町の村松達雄メダカ。元氣もりもり倶楽部を立ち上げて、元氣の素NEWSを発行。遠州森の祭りや食体験型店舗太田茶店オーブなど、遠州森町の元氣情報を発信。

○東京の菅原敏一メダカ発行の「かがり火」に、溝口久メダカが楽しい交流記を書いている。あら、鈴木武史メダカも「かがり火」の各地の支局長にはメダカがうじょうじよ。嬉しいね。本は学舎図書室にあります。定期購読ご希望の方はどうぞバラメダカに。

○引佐町の石野省三メダカ。田沢小の子供たちとマラソンの高橋尚子選手の記録に挑戦。がんばったのはいいけど、イタタタタ、足がもうちよつとだつたが、校長先生は病院に。マイツタね。

○磐田市の原邦司メダカと豊橋市の金子芳美メダカ。衆院選の立候補者の応援に大忙し。日本を変えるためには政治を馬鹿にしてはダメ。投票には絶対に行きましょう。

○天竜市の市川美鈴メダカ。友人と一緒に、「つみくさの帰ります。摘み草散策と山野草料理を食べてきました」と、リンデンパウムに寄る。「無沙汰しています」とは、ダメです。出席しなさい。

○長野県高森町の橋本秀子メダカ。今は市田柿の皮むぎで多忙。これからふじの摘果。フランスが食べ頃とリンゴと一緒に送ってくれました。さすがデコちゃんの果実。おしい。

○富士市の佐野玲子メダカ。長泉町の県立ガクセンターで「クソッ! このガキヤ!」負けてたまるか」と奮闘中。フレージャー玲子。またいくでね。

○豊岡村の鈴木正士メダカ。来年1月31日に「黎明フオーラム」4計画、大分県直入温泉の首藤勝次さんの講演「地域づくりの挑戦者がめざすもの」や地元の方々のムラづくり談話に夜の交流会。皆様のご来村をお待ちしています。

※もつともつと伝えたいが、今回はこれまでに。お便りください。待つてまーす。

◆学舎だより

●「あいらぶ学舎」スタツフ募集
学舎をより快適空間にするために、知力、体力、腕力、口力、溝掘力、材木力、財力(?)なんでも力、とにかく愛力のある方至急ご連絡ください。

仕事は①観音塾棟裏の屋根付土間を改造して給食室と倉庫、布田部屋を作ることです。②物見やぐらを作る。③ツリーハウスを修繕する。④記念樹を植える。⑤傷んでいるところを修繕する。⑥楽しい夢の入る宝箱(学舎)を作る。⑦その他。

右記事業を効率よく進めるために棟梁を併せて募集します。
※めだかの学校の「建学の精神」の骨格は、好奇心と遊び心と挑戦心。もう一人の自分発見、もう一人のあなた発見です。奮ってご応募を!!

●美味しくてビールを飲みたい方へ。
斉藤昭メダカが美味しいビールの飲み方を書いてくれました。連載用ですが「たより」には載せないので図書室に置きます。興味ある方は直接斉藤昭メダカへお問い合わせください。0538-32-8374

◆メダカ春秋

「しゅんじゅう」春と秋、一年、とし年齢、将来、五経の一つ。さびやかな意味があるんですね。自分の感覚ではやはり「春と秋」かなあ。なぜか?春4月には三熊野神社大祭、秋には小ねり、各地の秋祭り(笑)そういえば今年の秋祭りはすつかり雨にたたられてしまいましたね。

「遠州の祭りは横須賀に始まり、森で終わる」ところが今年11月22、24日「江戸天下祭」として今年も開催される。日比谷公園で開催され、江戸天下祭の流れを汲む各地の祭り山車が百数十年の時を超えて里帰り。地元千代田区の神輿や山車も参加して、平成の東京を舞台に「しゅん」の天下祭絵巻の再現です。まさに「廻る、江戸の華」

遠州横須賀からも2台の神輿(山車)の参加が決定、晴れの日には準備を進めています。期間中は全国街道交流会議「お江戸奇合」や江戸登城ウォーク、江戸フェスティバル(江戸職人長屋・江戸緑日横丁・諸国物産市)など盛りだくさんのイベントも同時開催。御用とお急ぎの用事のない方、ぜひお出かけ下さいね!! (遠州横須賀 鈴木武史生徒)

☆松田不秋メダカと照井泰子メダカ、三遠南信サミットで表彰される。

10月27日豊橋市で開催された三遠南信サミットin豊橋で、三遠南信地域の活動などで功労のあった団体や個人に贈られる賞を二人のメダカ生が受賞。松田不秋メダカは三遠南信の歴史や文化にどうけいがか深く浜松市の生涯学習の講師や生徒を連れての現地学習、地域のひととの交流など長年の功績が認められたもの。照井泰子メダカは、三遠南信の情報誌「Ami」を発行。充実した紙面は多くの人に評価されている。自腹を切りながらも頑張っている照井泰子メダカに、多くのメダカ生も執筆や購読サポーターになって応援している。当日、経済サミットの会場で表彰される二人、少々緊張気味。応援に駆けつけた豊橋の栃久保紀子メダカや森田泰子メダカから大きな花束をいただいて大感激。栃久保紀子メダカはホールの入り口で一生涯Amiを宣伝・販売。交流会の会場では、あとから駆けつけた豊橋の金子芳美メダカらと喜びあった。北脇浜松市長や早川豊橋市長らと並んでハイパチリ。おふたりさん、おめでとう。

☆浜松市の藤野利昭・はつえ夫婦メダカ。念願の「そば店」目指して発進。電器工事の仕事からそば屋へ。修業の甲斐あって経営のノウハウも少し判りました。いよいよお店の設計施工。材木は柴田宏祐メダカの家から杉をいただいて只今製材乾燥中。座布団の布地は渡辺ミツ子メダカが。床下に竹炭を敷きたいと先輩格のリンデンパウムへ。バラメダカからうるさいくらいウチクを。メダカの皆さんには感謝感激とはつえメダカ。そば店と言え、商工会の職員からそば店をはじめた岐阜県「そばの里 深蒼ふくど」の長谷川政夫メダカの本格こだわりそば。を食べてくるといいよ。

◆事務局だより

事務局のある引佐の山は静かです。天杯、皇后杯で沸く国体も、巷の選挙カーの連呼も蚊帳の外！。『おっ、来たか』と思えば「〇〇です」。よろしくお願いしましうす」と走る車の中で手を振っている誰か候補者なのかわからない。『目が合った時ぐらいい車を止めて一言ぐらいい言えよ。何がマニフェストだ、公約だ。これじゃ顔の見えない行政の書類といっしょだ』と怒っている事務局のバラさんでした。さて、第11期最初の9月5日の「めだかの学校」は去り行く夏を惜しんでの野外での特別授業。天気も良くて、火星も見えて、田邊哲貧乏神社社主の講義も興にのる。地下鉄電車で、ある男性が我儘で勝手に、ちよつとならいいだろと出したら止まらなくなり、流れ出してしまった前座の話、「待ってました貧乏神」。あの顔、あのしゃべり。もう可笑しくて面白くて、おなががよじれるほどに牙えわたる。天竜市でやった時はこんななのってなかった。やっぱりめだかの学校だヨナー。とは陰の声。演じ者との観客とが一体となった時本当に興にのるもの。学舎と生徒、人と人にも言えること。伊藤八右校長、大場敬子教頭、藤田吉恭用務員、田邊哲先生ごころうさまでした。42回校長は大橋町代、教頭は藤野利昭、原田憲治代理で、用務員は水野忠義です。よろしくお願いいいたします。●感謝II伊藤八右校長が朝早くから奥様と二人で草刈をしてくれました。●ガックリII給食を作ろうと思ったら買ったばかりの炊飯器や大鍋やポルがない。●ホットしたII金原志郎メダカが煮物と和え物を持ってきてくれたことと、渡辺三ツ子給食チーフが機転をきかせて事なきを得たこと。●フー、参ったネII水村春江メダカと関京子メダカが天龍村でフリースクール「どんぐり塾」を運営している中野昌俊メダカの教育特区と学校法人認定のために3千万円が必要。その資金集めの寄付の話と、野草茶の販売で金銭授受をしまったこと

など。翌朝、関京子メダカから「榎原さん、退学処分にしてください。帰りに主人から『お前は、退学処分になるようなことをしてしまつたんだ』とひどく叱られました」との電話「関さんも水村さんでも中野さんでも自分の利得でやっていいのではないから退学処分は自分で決めるので。次回の職員会議で話し合うから」と。

9月26日豊岡村元氣村「味里」で、大橋校長と水野用務員は出席できなかった。藤野教頭を中心に12人の職員で職員会議を開く。42回の授業内容を決める前に、先日の関京子メダカの電話の件を説明。「関さんや水村さんは自分の利得でやったことでもないし、めだかの学校に對しての貢献度も高いし、嚴重注意だけがいいのでは」ということで「注意」のみで全員賛成。中野昌俊メダカについては寄付した生徒もいるが、めだかの学校として応援しよう、一百万円の寄付をすることで決定、本人に連絡しました。

42回の授業内容については、楽しみながら『知的満足度を高めよう』と園芸博をテーマとすることを決めた。ほんとは園芸博が知的満足度をくすぐるの？「じゃ、誰にする？」「この3人が適格だよ」と。一時間目、吉岡徹園芸博会長代理で、裏話はどこでもあることだからオモテばなしでいこう。2時間目は、ポランティア会長で自らも園芸に関わっている池谷俊裕さん。3時間目は、古代園芸の研究に人生をつぎ込んで、ポランティアの講師で自らも出展する落合啓二さん。だめなときは今村純子さん。今回もひどい決め方である。伝言版が届いて先生方「このー、なんて連中だ!!」これが楽しくて自腹を切っても職員会議へ出かけているのだから。エッ、私も職員会議に出たいって。いいけど、脳力テストがありますよ。

「ねえ給食。とろろ食べたい。年越しそばもー」。給食は11月の給食当番の打ち合わせで決めます。通ればいいね。楽しみにです。今年もあと1ヶ月ほど、どうぞお身体にはご自愛して、12月5日にお会いしましょう。

◆今回もお礼とお詫びを！。今回こそ早くーと思つたがやっぱりだめでした。未だに男の更年期です。オマケに娘の出産と育児も手伝つてーマゴマゴするだけで男も伝つてあまり役に立たんねえ。そんなこともあって、今回もお世話をかけました。鈴木武史メダカ、松本芳廣メダカ、石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、本島慎一郎メダカ、鈴木正士メダカ、溝口久メダカ、服部守孝メダカ、照井泰子メダカ、エヌビィネットの伊藤多恵子さん、ありがとうございました。感謝です。

◆十一期継続手続きを済ませていない生徒は至急手続きを！。未手続きの生徒のみ申込書を送封します。手続きされないと、今回を持って自動退学となりますのでご承知ください。11期は、平成15年9月1日から16年8月31日までです。(事務局・榎原幸雄メダカ)

◆各地のたよりの掲載について情報ください。地域のイベント、あなたの活動など、どしどし送ってください。待っています。次回発行日は16年2月1日です。1月20日までには郵便か「文」で。事務局「文」053・545・0381、メール「ten@net.co.jp」照井泰子あて

◆めだかの学校事務局 〒431-2553 静岡県引佐郡引佐町東久留 留女木472-1111 「リンデンパウム」内 榎原幸雄 ※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。



めだかの学校事務局 〒431-2553 静岡県引佐郡引佐町東久留 留女木472-1111 「リンデンパウム」内 榎原幸雄 ※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。